

# 「持続可能な社会」のための生活指標開発の試み

岐阜大 ○大藪 千穂、杉原 利治

**目的** 近年、生活に於けるパラダイム・シフトが謳われ、「持続可能な社会」の構築が緊急の課題となってきた。そのためには、生活者が環境醸成的意識を持ち、それにふさわしいライフスタイルを獲得することが必要である。我々は、生活者の側から「持続可能な社会」を展望する場合、生活のシステム論的考察が有効であると考え「持続可能な社会」の尺度としての生活指標の開発を試みた。

**方法** 前報において報告した「人間社会システム」の理論<sup>1)</sup>を用いて、「持続可能な社会」の要件を検討し、その尺度である生活指標の開発をおこなった。

**結果** 新しい生活指標は、個人から地球に至るまでの様々な規模のシステムを想定して開発され、立体的レベルを持つ3つの指標群から構成される。第1の指標は「システムの状態指標」である。第2の指標はシステム間の関係を示した「システムの関係指標」である。第3の指標は、システムの状態や関係を統括する「システムのコントロール指標」である。これらの指標は二軸によって整理される。第一軸についてはシステムの成長・発展の段階に応じて維持・防御と発展に2分し、第二軸には5つの生活領域（労働、消費、教育・文化、福祉、環境）を設定した。個別の指標項目はコスト、回数、量などの量的側面と、自由度、正確さなどの質的側面を各種の数値で表した。本研究では特に環境領域に重点を置いて指標の開発をおこなった。

1) 大藪千穂・杉原利治、「家政学」から「人間社会システム学」へ、『家政学部原論部会報No.31』、家政学原論部会、1997年